

1 題材名 わたしの心の木

2 題材の目標

- 木から思い浮かんだことを基に、進んで表現活動を行おうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- 木から思いを膨らませて、描きたい場面を考えることができる。
(発想や構想の能力)
- 自分で選んだ木を見ながら、木の特徴を表すように描くことができる。また、彩色では自分の感じた色を工夫してつくることことができる。
(創造的な技能)
- 作者が表しなかったことやそのために工夫したことなどに気付くことができる。
(鑑賞の能力)

3 指導に当たって

小学校学習指導要領解説図画工作編（平成 20 年 8 月 文部科学省）の第3学年及び第4学年の内容「A表現（2）感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体に表す活動」を通して、指導する事項として、「感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見つけて表すこと」と示されている。

本校の校庭には児童の生活と深くかかわっている木が何本もある、「木登りの木」として児童に親しまれているヤマモモの木。秋になると実を落とすトチの木。春には「お花見給食」が行われる桜の木。美しい紅葉を見せるもみじの木。これらの木が、教室で話題になることもたびたびある。このことから児童の心の中には木に対する温かな思いが育っていることがうかがえる。これらの木に対する児童の思いを基にして「感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見つけて表す」能力を育てたいと考え、本題材を設定した。

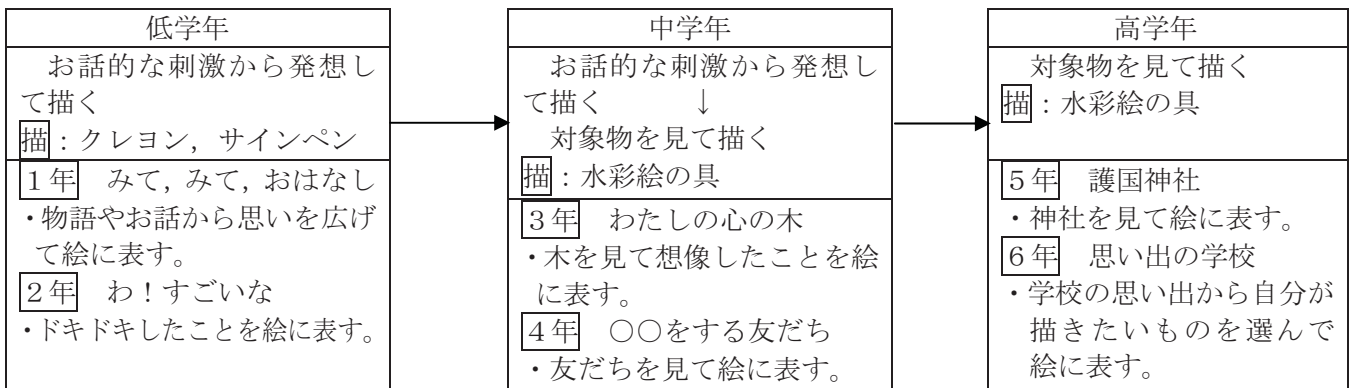
本学級の児童は、全員が絵を描くことを好んでいる。しかし、絵を描くことに関する意識調査からは「発想」や「思ったように描く」という点で不安を感じている児童がいることが分かった。どのように描いていいか思い付かないことの一つの要因として、いろいろな作品に出会う機会が少なくイメージ資源が乏しいことが考えられる。解説では「鑑賞の指導の充実」を、学校教育指導方針では「系統性のある指導計画の編成」が取り上げられ、表現で学んだ知識や技能が鑑賞に生き、鑑賞で学んだ見方や感じ方が表現に生かされるような題材の構成が求められている。そこで、発想を支援するために、作品や表現の方法に出会うための鑑賞を「振り返り」の過程だけではなく、「とらえる」過程や「解決する・確かめ合う」過程でも計画的に行いたい。

また、思ったように描くことができないと考える主な原因は、経験が少ないために水彩絵の具が思ったように扱えないということにある。3年生は絵の具の指導の導入期に当たるので、用具の使い方を指導しながらも、児童が興味をもって取り組める色づくりにポイントをおくことで、楽しんで描くことができるように配慮していきたい。さらに、絵の具だけではなくクレヨンで彩色させるなど個に応じた支援を工夫していきたい。

4 教科で育てる学力の系統表との関連

【「感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体に表す」

描：中心となる描画材】



5 指導と評価の計画（11時間扱い）

時		○学習のねらい・学習活動	評価規準（観点：評価方法）	努力を要する状況の 児童への手立て
とらえる	① 本時	○「木」が描かれているいろいろな作品を鑑賞し、作者が表現したかったことを想像する。 ・「木」に関する体験を話し合う。 ・作品を鑑賞し題名を考える。	・作者が表現したかったことを想像している。 (鑑：観察，発表，鑑賞カード)	・友人の考えを参考にしてもよいことを伝えたり，話を聞きながら考えをまとめる手助けをしたりする。
見通す	2	○校庭の中から自分の木を選び，思いを膨らませる。 ・感触を確かめる。 ・登ったり葉や実を拾ったりする。 ・自分の木の説明をする。	・木から思いを膨らませて，描きたい場面を考えている。 (発：発表，学習カード)	・木を見るポイントのいくつかの例を示して活動のイメージがもてるように援助し，活動を促す。
解決する・ 確かめ合う	3 ・ 4 ・ 5	○自分の木の特徴が表せるように木を見ながら描く。 ・幹や枝の様子 ・花，葉，実など ○木から膨らませた思いを描く。 ・人物や生き物，周りの様子	・自分の木の特徴を表そうとしている。(関：観察，作品) ・自分の思いを膨らませながら，構想を練っている。 (発：作品) ・自分の木の特徴を工夫して表している。(技：作品)	・特徴が表れている部分を認め，本人の思いを生かした表現ができるように配慮する。
	6 ～ 10	○木の表現に注目して作品を鑑賞する。 ○水彩絵の具を使い，木の特徴が表せるような色づくりや彩色の方法を工夫する。 ・混色で色をつくる。 ・色を置いていくように彩色する。	・水彩絵の具の色づくりや彩色の方法を工夫している。 (技：観察，作品)	・絵の具がはみ出してしまい思ったように彩色できない児童には，部分的にクレヨンを使うことを勧める。
振り返る	11	○自分の表現への思いを温めたり友人の作品のよいところを見付けたりする。 ・鑑賞会を行い自他の作品のよいところや工夫しているところを話し合う。	・友人の作品のよさを見付け，感じ取っている。 (鑑：観察，鑑賞カード)	・鑑賞のポイントを具体的に示すことで，友人の作品のよさを見付けることができるようにする。

6 本時の指導

(1) 目標

- 作者が表現したかったことを想像することができる。

(2) 手立て

- 木が描かれているいろいろな作品を鑑賞することで，児童のイメージ資源を補いたい。
- 鑑賞のポイントを示すことで，深く鑑賞できるようにする。
- 個人やグループで活動する場面を設定し，いろいろな感じ方を認め合えるようにしたい。

(3) 準備・資料

木が描かれている作品5点（桜の木，銀杏，白樺，夜の木，カブト虫の木）
鑑賞カード

(4) 展 開

○ 教師の支援

● 個々の児童への支援

◎ 評価 (観点: 方法)

学 習 活 動 ・ 内 容	指 導 ・ 支 援 と 評 価
<p>1 「木」から思い付くことを話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;">木登りの木に登ったよ。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;">トチの実がたくさん落ちているよ。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;">カブトムシを捕まえに行ったよ。</div> </div> <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">作品をかんしょうして，作品に題名をつけよう。</div> <p>3 作品を鑑賞する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【鑑賞のポイント】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 描かれているものは何かな。 ② 何をしているのかな。 ③ 季節はいつかな。 ④ いつごろの時刻かな。 ⑤ 木は画用紙のどのあたりに描かれているかな。 ⑥ 好きなところや感心したところ，工夫していると思ったところはどこかな。 </div> <p>(1) グループごとに作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞カードに各自記入する。 ・ グループで話し合う。 <p>(2) 鑑賞カードに記入したことを基にグループごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えと比べながら聞く。 <p>4 作品に題名を付け発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の題名を考える。 ・ 題名を付けた理由を説明する。 <p>5 本時のまとめをし，次時の学習について見通しをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 自己評価をする。 (2) 次時の学習内容を知る。 	<p>○児童一人一人の木に対する体験やそれに付随する思いから表現が出発できるように、「木」から思い付くことを話し合う時間を設定する。</p> <p>●発想の段階でつまずき，なかなか作品が進まない傾向にある児童も，ヤマモモの木に登ったりトチの実を拾ったり楽しんで行っている。その体験をこの場で再認識することで作品に表す段階でテーマがしぼれるように支援したい。</p> <p>○一つの商品を取り上げ，鑑賞のポイントを確認する。ポイント①②については，細かく追及することができる内容であり，題名を考えるに当たっても大切な部分であるので，ていねいに見るようにさせたい。</p> <p>○いろいろなイメージや表現の方法を見付けることができるようにするために，内容や構図，季節などが様々な鑑賞作品を準備する。</p> <p>○はじめにすべての作品を簡単に紹介する。その後，じっくりと作品を鑑賞することができるように，グループで1作品ずつ鑑賞させる。</p> <p>○グループでの鑑賞では，自分の考えを基に話し合うことができるように，最初に各自が自分の考えをカードに書く時間を設ける。</p> <p>○グループごとの発表では，作品の特徴がよく分かるように，プロジェクターを使って映像をスクリーンに映し出す。また，自分の感じ方と比べて聞き，いろいろな感じ方があることを理解させたい。</p> <p>○児童の意欲に応じて，グループで鑑賞した作品以外にも題名を考えてよいこととする。</p> <p>◎作者が表現したかったことを想像している。 (鑑：観察，発表，鑑賞カード)</p> <p>○鑑賞カードに自己評価することで，本時の学習への取組を確認し，次時への意欲につなげたい。</p>